

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年3月5日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

消費税増税やめろ！ 社会保障の拡充を！

300人で、アピール集会 吹雪の中、札幌中心街をパレード

3月3日ひな祭りの日、札幌市内で「ストップ消費税増税！増やせ社会保障！アピール&パレード」が行われ、吹雪の中、約300人が参加しました。



消費税廃止各界連の石塚隆幸代表が挨拶、政党から日本共産党の畠山和也さんが「消費税は最悪の税金です。マスコミが消費税増税はしかたないという大合唱の中でも反対世論が増えています。改悪はやめさせましょう」と連帯の挨拶をしました。

6人が「一言アピール」 「生きていけない」「医療・介護・保育・生保の改善を」

「一言アピール」では6人が訴えました。「消費税は今でも大変。このままでは生きていけません」と東部民商の中沢事務局長が中小業者を代表して発言。消費者を代表して、新婦人札幌北支部の諏訪洋子さんが「『私達の声を聞いて下さい』と「野田首相へFAXを送る運動をしています。『年金が減らされ、介護保険料が上がる。今でも大変なのに消費税増税は許せません』『負担は大金持ちや大企業に求めて下さい』と訴えました。舞台には仲間が、送付したFAXを並べたポスターを掲げました（左下写真の右側）。



続いて、勤医協札幌病院のソーシャルワーカーの田村史織さん（写真左）が「医療費の支払いができないと相談が増えています。年齢を問いません。保険料を払えず無保険の方、治療を我慢して手遅れで亡くなる方もいます。私も40代の方を担当しました。誰もが安心して医療が受けられる制度に変えていきましょう」と訴えました。介護問題では、勤医協在宅菊水センターの松下貴裕さんが「4月からの介護報酬では事実上の引き下げになり、介護職員の処遇も悪化されかねません。ヘルパーさんの時間も機械的に短縮されようとしています」と抜本的な改善の必要性を訴えました。

非正規で保育士をしている高脇可苗さん「新システムは、市町村の保育園の実施義務や施設基準を緩和して保育の市場化をいっそう進めるもので、撤回が必要です。私の年収はワーキングと同じで、いつ計画が切られるか心配です」と保育制度の改善を求めました。

最後に、お子さんと一緒に参加した西塚妙美さんが「生活保護の担当ケースワーカーから『仕事をする意欲がなければ停止になります』と言われ、自分で探しましたが何社も断られました。相談すると『旦那が病気なのであなたが働かなくてははいけません』と言われ、自分が頑張らなくてはいけないと思い眠れない日が続き、うつ病にかかりました。その後就職しますが、『その時間なら少ない』と言われました」と生活保護の就労指導などの実態を告発し、ボランティアの強制、打ち切りなどの改悪の動きを批判しました。

（発言の詳細は次号以降でお知らせします）

もも太郎も、おひなさまもパレードに参加

集会の最後に、「もも太郎」に扮した池田法仁さん（消費税廃止各界連事務局長）が行動提起をしました。

その後、各団体が用意したウチワやタペストリー、大型ポスターやノボリなどを掲げ、「消費税増税反対」「社会保障の拡充」などの声を上げ、JR札幌駅周辺から大通公園までパレードしました。



3月27日（火）は地下歩行空間で宣伝行動／4月2日（月）は宣伝行動日です